



海禅寺新聞『第22号』

昨年の酷暑とは打って変わって、今年は梅雨が長引いています。そろそろ夏らしい日々が到来しそうです。

国政選挙があつても、吉本興業が騒動をおこしても、ともかく季節は毎年規則的に巡ってきます。思い煩うことがあるときこそ、四季の移ろい、そして自然の美しさ、厳しさに静かに目を向け、心の平静を保ちたいものです。

生きる力・97号』送付



真言宗智山派が発行する、檀信徒の皆さまの情報誌「生きる力」を同封しました。今回の特集は『お盆だからこそ考えよう』亡き人を安心して送り・供養するために①『通夜』です。大切な方を亡くされたお檀家さんにご連絡をいただいた後、菩提寺として最初にお勤めするのが、このお通夜です。海禅寺では亡き方に対して、お通夜の際にお戒名をお授けしておりますが、戒名の意味、そしてその説明も含めて、特に丁寧さを心がけてご供養させていただいております。本紙の記事を通じて、お通夜の意義を改めてご確認いただけましたら幸いです。他にもお馴染みの連載を含め、読み応えのある記事が満載です。ぜひ一読ください。

施餓鬼会のご案内

恒例の施餓鬼会法要を左記の通り勤修いたします。本年は法要前の時間帯に、副住職の法話がございます。これまで著名な先生方や落語家の師匠をお招きしておりましたが、様々なご意見をいただく中で初めての試みです。果たしてどうなることが私副住職は今からドキドキしておりますが、皆さまにお伝えしたいことを整理してお話したいと思えます。どうぞ控えめにご期待をいただき、お出かけ下さい。



日程：令和元年8月12日(月)
時間：10時 諸報告
10時10分 法話「いのちの話」
11時 施餓鬼法要
12時 お斎(とき)

※詳細は、同封の別紙詳細をご覧ください。

海禅寺数珠つなぎ

海禅寺にかかわる皆さんの声を、お数珠のようにつなげ、ご紹介していきます

信徒 藤牧 由美子さん 9人目

今回は年間を通じて境内地の環境整備をして下さっている藤牧さんです。

海禅寺さんでお掃除をさせて頂いて、今年15年目になりました。きつかけは私の近所に住む方が芙蓉園(旧・芙蓉保育園)の



保護者さんで、その方を通じてこちらのことをご紹介いただきました。私の役割は主に、境内地で雑草を抜いたり、掃き掃除、そして水屋の掃除をしています。たくさん草花がある中で、当初その種類はまったく分かりませんでした。ですが、作業の合間に北原先生(海禅寺新聞19号掲載)にその名前を覚えていただいているうちに、少しずつ知識が身につけてきました。名称がわかってくることで、自然と対峙した時にその一つ一つの姿が見えるようになってきたことに、とても喜びを感じています。またお寺の方針で、除草剤などを使って全ての植物を除いてしまうのではなく、苔を大切に、野草の花も大切に作る姿勢にとっても共感しています。もちろん抜き取ってしまわなければならぬ雑草もありますが、こうして野草の可憐な美しさに思いを寄せることで、私の心が優しくなれるような気がします。

そして何より嬉しいのは、作業をしていると、お参りに来た方が声をかけてくださることです。たとえ私が気付かずにもその方に背を向けてしまっている時でも、労いの言葉をいただくことは少なくありません。そんな時はとても嬉しく思いますし、何より励みになります。お檀家の方はもちろん、最近では観光目的で参拝される方も増えました。特にNHK大河ドラマ「真田丸」放映の時期は、大勢の方々がお見えになっていきましたが、その頃程ではないにしても、今も遠方からご参拝の方がいらつしやいます。そうした時にお寺の由緒を尋ねられることがありますが、私が覚えている範囲でお伝えしています。時には歴史にとっても詳しい方から、こちらがたくさん教えていただくこともあつて、勉強になっています。おかげで歴史の知識も少しずつ増えてき

ました。また外国人の方がおいでになることもあります。そんな時に英語できつと応対できた素敵だなあと感じますが、なかなかそうもいきません。ですが、これをきっかけに英語を勉強してみようかと今思っています。いずれにしても作業をしながら、普段では縁のない方達と関わり合えるのが楽しみの一つです。

私自身、日常生活の中で悩みや不安を抱えることもありますが、こうしてお寺という空間に身を置くことで、不思議と心が落ち着きますし、夢中になって作業をしていると、時のたつのを忘れることができます。またお堂の前で、または墓地で、一心に手を合わせるお参りの皆さんの姿から、言葉にならない多くを教えていただいているように感じています。ありがたいことです。これからも更にお寺のこと、植物のことを知って、機会があればご参拝の方達にお伝えできたらと思っています。

寺より

藤牧さん方には、境内の私たち寺族では手の届かないところまでいつも綺麗にしてください、心より感謝しております。また、時を忘れる程熱心に取り組んでおられるとのこと、これはまさに仏道修行のようだと感じました。仏教では心を一つのものに集中させて、安定した精神状態にあることを「三昧(さんまい・サマーデー)」と言いますが、お掃除を通じてそうした状態になっておられるのではないかと思います。仏教が提案している修行とは滝に打たれたり坐禅を組んだりという特別なことばかりを指しているわけではありません。日常生活の中にもその鍵がたくさんあるのだと教えています。過ぎ去ってしまった過去や、まだやってきていない未来に思い煩うことなく、自分の足元に間違いなくある「今」という瞬間に注力していくことで見えてくる世界。藤牧さんの体験談をお聞きしていて、こちらが教わるような思いがいたしました。ありがとうございました。 合掌

報告 第8回 聖天祭

多くの方達にお支えをいただき、毎年5月の第3日曜日に開催している聖天祭。お陰様で8回目を無事終える



「楽しみ」があるのは勿論のこと、お集まりの皆さんは自然と各お堂に手を合わせ、仏教や寺のことにも関心を持つてくださっている『仏さまツアー』という企画があります。これは副住職が海禅寺でお祈りしている神仏をご紹介しつづつ、仏教の話をしなが

各お堂を巡るというもの。当初は10人を少し越えるくらいですが、加者でしたが、今年是不動堂に入りきれない程大勢の方達が熱心に参加してく



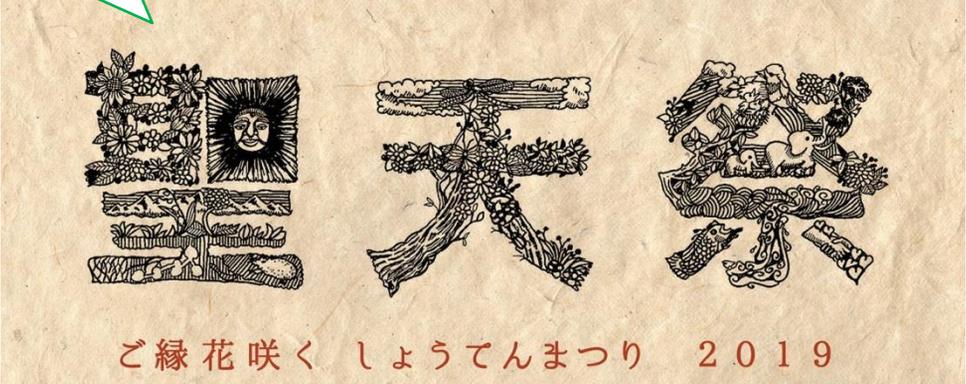
「仏さまツアーの様子」

また境内全体にゆつたりとした空気が流れ、皆さん談笑しながらくつろぐ様子があちらこちらに見られました。聖天祭において大切にしているテーマの一つは、「様々な縁や繋がりが、よりあたたまるような場したい」というものですが、その願いが少しずつ実現しているように感じています。こうしてたとえ年間であった1日だけ

のことであっても、皆さんの海禅寺が、多くの方達にとつて、人生の活気が広がるきっかけになれたらと念願しています。これからもどうぞご注目ください。

(次回は令和2年5月日を予定)

線維筋痛症という難病と闘う海禅寺に縁のある画家の方が、聖天祭のロゴを描いてくださいました



ご縁花咲く しょうてんまつり 2019

副住職の気まぐれ法話 損して徳を取りましよう

今回はヒマラヤ山脈の東端にある小さな仏教王国ブータンに伝わる民話を紹介します。

この話は、ブータン版『わらしべ長者』とも言えるお話なのですが、日本の「わらしべ長者」と大きく違うのは、一見「不利な交換」とも言える取引をしながら物語が進んでいく点です。

むかし、ある村の人気者・ヘレヘレいさんがソバ畑で働いていた時のこと、切り株を掘り出していると、大きなトルコ石が出てきました。(ヒマラ

ヤ近郊の文化圏でトルコ石は、大変に価値のあるものです。私たちにとっての金塊に等しいでしょう。」「これを売れば金持ちになれる」と喜びながら市場へ向かい、トルコ石を交換してしまします。

何度目かの交換の後、ヘレヘレいさんは、男が楽しそうに「幸せの歌」を歌いながらやってくるのに出会いました。その男に「聞いておくれよ。

畑からトルコ石が出てきたんだ。それが立派な馬になり、その馬が老牛となり、その牛が羊になり、そして羊が鶏になった。そこで、あなたの歌を、この鶏と交換してくれないかい？」とヘレヘれいさんはうれしそうに話します。そして、男に鶏を渡し、自分は「幸せの歌」の歌詞を口ずさみながら幸せそうに帰っていきました。

このような「不利な交換」を「ヘレヘれいさんのようだ」とブータン人は親しみをこめて語ります。

ブータン人は、物やお金が少しでも多く手に入れることを幸せだと思っている人が多いこの世で、他人に惜しみなく施すことが幸せなことだと考

えているのだそうです。

その背景には、仏教国であるブータンの人々が輪廻転生を信じ、そうした永遠なる時間と命のなかで、日常における功徳を積む行為が、来世への幸福にもつながると信じていることがあります。

またもう一つには1972年に弱冠16歳で即位した第4代ブータン国王が掲げる国家目標があります。それは「経済成長自体が国家の目標であってはならない。目標はただ一つ、国民の幸せに尽きる。富の増加が幸福に直接つながると考えるのは

間違いだである。国民総生産GNPではなく国民総幸福量GNH (Gross National Happiness)の向上を目指す」というものです。「幸せ」と一口に



いっても思い描くものは人それぞれ違うでしょう。しかしこの肉体に宿る私という生命の有限さを思うとき、本当に大切なもの、かけがえのない幸せ感、自ずと共通したものが立ち現れてくるように思うのです。お盆を迎えるこの季節、ご先祖に感謝の祈りを手向けつつ、「幸せ」について話合うのもよい供養になるのではないのでしょうか。

Instagramやっています

昨年より、インターネット上で写真を共有できるソーシャル・ネットワーキング・サービス、『インスタグラム』を始めました。スマートフォンを盛んに使用する世代の檀信徒の皆様に、寺の息吹が感じられるような海禅寺の「今」をお届けしたいと発信しています。お陰様でフォロワーは200人を超えました。ぜひお子様、お孫様に、「海禅寺がインスタグラムはじめたそうだよ!」とお知らせください。 ※アカウント feel_kaizenji



発行元 海禅寺